

環境

歴史探偵
大江戸SDGs

放送日:2021年9月15日 放送時間:45分



対象校種 小学校高学年 中学校 高校

対象教科 社会 総合

この番組の良さ



● 故(ふる)きを温(たず)ねて新しきを知る

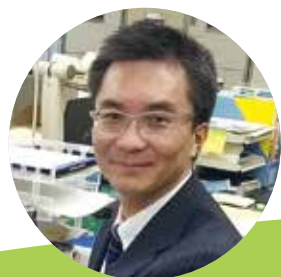
今、世界で注目されているSDGs。未来にわたり豊かな社会を持続させるための目標です。このSDGsの参考になると注目されているのが実は昔の江戸の暮らしです。ここでは、徹底した再利用が行われ、ごみはほとんど出なかったと言います。

番組を視聴することで、歴史から地球の未来を身近な問題として感じ、「持続可能な世界」を次の世代に残していくための課題について考えるきっかけになるでしょう。

● 予測困難な時代をしなやかに生きる

最新の研究では、江戸時代は日本史上一番雨が多く、寒かった時期だったことがわかってきました。現代の2倍近くの雨が降ったという江戸。人々は、どうやってこの気候変動に対応してきたのでしょうか？

最新の研究が紐解く江戸の暮らし。変化の激しい予測できないこの時代だからこそ、江戸の人々の暮らしから得たヒントをもとに、自分たちのできることは何なのかについて、考えることができます。



執筆者
沼津市立第四小学校
教頭 加納 真

番組活用のポイント

● 江戸から未来に役立つヒントを学び
自分事としてとらえる

現在、世界には環境、貧困、人権、平和、開発といった様々な地球規模の課題があります。これらの課題の解決を目指し、持続可能な社会を創造していくために示されたのが持続可能な開発目標(SDGs)です。この目標を自らの問題として捉え、課題の解決につながる新たな価値観や行動を生み出し、持続可能な社会の創造を目指す学習や活動が求められています。

そんな中、学校では、SDGsに関心をもち知識や技能を身に付け、日々の生活の中で行動に移そうとする実践も見られるようになりました。しかし、自分事としてとらえることや、自分たちの行動によって世の中が変化していくという実感はあまりないのが現実かも知れません。

江戸時代の日本は急速に人口が増加し、様々な課題があったにも関わらず、世界トップクラスの経済成長率を誇っていました。そして、限られた資源を活用し、持続可能な社会を構築していました。かつての日本で行われていた取組を知ることで、地球規模の課題を自分事としてとらえ、問題意識を丁寧に醸成することができます。

● 教科等横断的に扱う

現行学習指導要領では、前文と総則に「持続可能な社会の創り手の育成」が明記されています。その動きを受け、小学校の家庭科や道徳科、中学校の社会科や理科、技術・家庭科などにも「持続可能」という言葉が使われるなど、持続可能な開発目標に関する内容が様々な教科に盛り込まれています。

総合的な学習にとどまらず、社会科や理科、家庭科などの学習と関連付けながらカリキュラム・マネジメントに取り組み、自分たちに何ができるのか、どのように生きていったらよいのか考えていくようにするとよいでしょう。番組をきっかけに、個々の関心に応じてテーマを深く追究し、対話を進めていくと良いでしょう。

学習展開例

対象校種

小学校高学年

対象教科

総合

江戸のくらしから学ぶ持続可能な社会とは？

【授業時間 70分】 まるごと視聴

児童生徒の思考と活動の流れ	教師の支援と評価
<p>テレビでよく聞くけど、くわしくは知らない。</p> <p>地球の環境に関するのかなあ。</p> <p>国連が関係すると聞いた。</p> <p>地球全体の問題？</p> <p>自分たちも含む地球全体の課題であることは分かるが、何ができるのかよく分からない。</p> <p>江戸時代は、ききんがあつたり身分制度もあつたりしたのに持続可能ってどういうこと？</p> <p>産業や技術も今の方が上じゃないの？</p> <p>今の教育の方が、質が高いのではないかなあ。</p> <p>江戸時代は、どのように持続可能なくらしを構築していたのだろうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> SDGsについて知っていることがあるか尋ねる。 17の目標のリストを配布し、SDGsが地球の未来を守るための、持続可能な開発目標であることを確認し、自分たちの世代に課せられたものであることを確認する。 SDGsの目標を達成していた時代が日本にあったということを伝え、既存の認識や知識とのずれから、問いを醸成していく。
<p>番組まるごと視聴</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 1人1台端末を活用し、共感したことや重要だと思ったことを箇条書きでメモしながら視聴するように伝える。
<p>12 つくる責任 つかう責任</p> <ul style="list-style-type: none"> 江戸時代は、無駄のないくらしをしていた。 作りすぎない世の中だった。 再利用を極めていた。 <p>1 貧困をなくそう</p> <ul style="list-style-type: none"> 多くの人が職につくことができた時代だった。 簡単に始められる仕事があった。 <p>6 安全な水とトイレを世界中に</p> <ul style="list-style-type: none"> 当時、江戸は衛生的なまちだった。 公衆トイレや井戸、ごみ箱などがしっかり整備されていた。 <p>13 気候変動に具体的な対策を</p> <ul style="list-style-type: none"> 農民からしほり取っていたと思っていたが、凶作時は年貢引きなど対策があったんだ。 <p>8 働きがいも経済成長も</p> <ul style="list-style-type: none"> 平和になり、技術革新が進んだ。今の時代は平和？ 	<ul style="list-style-type: none"> 取り上げられている内容が、SDGsのどの目標に当たるのかを結びつけながら考えると良いことを示唆する。 1人1台端末を活用し、1～17のそれぞれの目標について類型化しながら意見交換を行うことで、江戸時代のくらしについて、議論し、自分たちのくらしと結びつけて考えられるようにしていく。 思考が番組内だけにとどまらないよう、社会科など、他教科での学びを想起するように呼びかける。
<p>江戸時代は、生活の中から出てくる様々な課題を、人々の知恵や工夫、努力で解決しながら、それぞれの立場がWin-Winになる関係を築くことで、持続可能なくらしを維持していた。</p> <p>今の方が技術は高いし知識も豊富だから、持続可能な社会を作ることはできるはずだ。私たち一人一人の意識の問題だ。何ができるのか考えてみたい。</p>	<p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 江戸時代のくらしから、持続可能な開発目標について自分事としてとらえ、未来のためにできることを考えるきっかけとすることができたか。 SDGsについて自分事としてとらえられるようにするため、何ができるのか考えてみたいといったつぶやきを取り上げ、次時につなげる。